

彼は天使を見つめ、怖くなって、「主よ、何でしょうか」と言った。すると、天使は言った。「あなたの祈りと施しは、神の前に届き、覚えられた。今、ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、革なめし職人シモンと言う人の客になっている。家は海岸にある。」（使徒10：4～6）

その中には、あらゆる四つ足の獣、地を這うもの、空の鳥が入っていた。そして、「ペトロ、身を起こし、屠って食べなさい」と言う声がした。しかし、ペトロは言った。「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物など食べたことはありません。」すると、また声が聞こえてきた。「神が清めた物を、清くないなどと、言ってはならない。」（使徒10：12～15）

地中海に面し、ローマに直行するカイサリアと言う港町があった。カイサリアにはローマの総督の屋敷があり、多くのローマ兵が駐屯し、百人隊長のコルネリウスと言う人もここにいた。彼は敬虔な人で、一家そろって神を畏れ、絶えず神に祈っていた。彼はユダヤ教徒に改宗していたのではないか。ユダヤ教徒の善行である施しを、多くの民にしていた。ある日の午後三時ごろ、天使が来て「コルネリウス」と呼びかけられるのを幻ではっきり見た。彼は天使を見つめ、「主よ、何でしょうか」と恐る恐る答えた。すると、天使は言った。「あなたの祈りと施しは、神の前に届き、覚えられた。今、ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。その人は、革なめし職人シモンと言う人の客になっている。シモンの家は海岸にある」と言われた。彼は、召し使い二人と側近の部下で敬虔な一人の兵士を呼び、天使からの御告げを話し、ヤッファに遣わした。

一方、遣わされた三人がヤッファの近くまで来た頃、ペトロは、昼の十二時ころ、祈るために屋上に上がった。彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。人々が食事の準備をしているうちに、ペトロは我を忘れたような状態になった。すると、天が開き、大きな布のような入れ物が、四隅で吊るされて、地上に降りて来るのが見えた。その中には、あらゆる四つ足の獣、地を這うもの、空の鳥が入っていた。そして、「ペトロ、身を起こし、屠って食べなさい」と言う声がした。しかし、ペトロは、「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物など食べたことはありません」と答えた。ユダヤ人は、全ての動物を清いものと汚れたものに分類し、汚れたものは決して食べないという律法があった。ペトロは汚れたものは断じて食べたことはない、律法を守っていると答えた。すると、また「神が清めた物を、清くないなどと、言ってはならない」と言う声が聞こえてきた。このような幻が三度あり、入れ物は天に取り上げられた。ペトロが、この幻は一体何だろうか、戸惑っていると、コルネリウスから差し向けられた三人が、門口に立ち、「ペトロと呼ばれる方が、ここにおられますか」と尋ねた。ペトロは幻について考え込んでいると、霊が、「三人の者があなたを探しに来ている。さあ、立って下に行き、ためらわないで一緒に出発しなさい」と言った。彼は三人のいる門口に降りて行き「あなたがたが探しているのは、この私です」と答え、用向きを聞いた。彼らは「百人隊長のコルネリウスは、正しい人で神を畏れ、ユダヤ人の全国民に評判の良い人ですが、あなたを家に招いて話を聞くようにと、聖なる天使からお告げを受けたのです」と答えた。ペトロは、コルネリウスに招かれていることを知り、この日は、三人を迎え入れ、泊ませた。